

戦争の残酷さを知る

アウシュビッツ収容所報告会

岐阜市

岐阜市で27日、ナチス・ドイツの負の世界遺産「アウシュビッツ強制収容所」を訪ねた、みどり福祉会理事



ナチス・ドイツの「アウシュビッツ強制収容所」の残酷さを語る木俣さん＝27日、岐阜市

長の木俣光江さん(77)の報告会が開かれ、30人の市民が参加しました。主催は「岐阜・九条の会」サロン9条例会。

アウシュビッツは、第2次世界大戦中にナチス・ドイツがユダヤ人など少なくとも11

0万人を大量虐殺した収容所で、ポーランド南部に博物館として登録されています。

木俣さんは、収容所に「眼鏡の山」「義足の山」「靴の山」などがあり、虐殺された人たちが身に着けていたものを見て、「残酷さを知

り、自分たちの問題として伝えていかなければならない」と語りました。

意見交換では、今回の案内を見て初めて参加した女性は「収容所へいく列車の中から家族が赤ちゃんを頼むと窓から放り投げたというが、この子は今どうしているだろうか」、40代の男性は「小学校の教科書が来年度に変わるが、真実を知らせる教材がほしいと思っただ」、60代の女性は「重度の障がいをもつわが子は、戦争になったら一日たりとも生きていられない。9条守れ、戦争反対の声を上げ続けていきたい」と語りました。